

モード Mode は語る

中野 香織

美の競演に潜む甘美な皮肉

5月の第1月曜日、今年も「メットガラ」のニュースがSNSをにぎわせた。ニューヨークのメトロポリタン美術館 (Met) で開催されるファッションの祭典である。美術館に付属する服飾研究所の展覧会のオープニングを飾る。

富も名声もあるセレブリティが、膨大なエネルギーで豪華絢爛 (けんらん) だったり奇抜だったりするドレスやスーツをまといレッドカーペットを歩く。高額チケットの売り上げが服飾研究所の活動資金に回る芸術文化庇護 (ひご) の側面を持つ。

2024年のドレスコードは「時間の庭」。



主催者は米「ヴォーグ」編集長のアナ・ウィ
ンターロイター

服飾研究所の展覧会のテーマ「眠れる美への追憶——ファッションがふたたび目覚めるとき」に合わせて選ばれた。服は脆弱で、経年で劣化する。だが、可能な限りの工夫で一時的に時を戻し、アーカイブに収蔵されているアイテムを未来の世代へと継承することはできる。そんな意図をテーマからくみ取れる。一方、裏に社会的なテーマを読むこともできる。

ドレスコードの着想源はJ・G・バラードの小説『時間の庭』。洗練された音楽や服に囲まれる伯爵夫妻の美のとりでが、労働者階級の野蛮な群衆に蹂躪 (じゅうりん) されるSFディストピア物語

メットガラ セレブの装い

である。伯爵は「時の花」を摘みわずかに時間を戻すことはできるが、花の数に限りがある。最終的に美のとりでが崩壊することは避けられない。

この物語を知れば、美とぜいたくの競演の舞台であるメットガラそのものが「時間の庭」に見えてくる。実際、当日は1000人超のパレスチナ連帯デモが会場へ行進。そうでなくとも戦争、気候変動、経済的困窮が、肥大化したSNSの闇が「野蛮な群衆」さながらに八方を取り巻く。

天の視点から見れば、美のとりでにこもる特権階級が、いずれ訪れる崩壊を知りながらも少しだけ時を戻しているという構図が見える。ここまで考えてドレスコードが設定されていたとすれば、なんと知的で甘美な皮肉に満ちた祭典だったのである。